

問	回答要旨・意見
問 4 先進地視察の感想	
問 5 建物等デザインについて	
問 6 基本コンセプトについて	
問 7 自由意見	

次世代ワークショップ

- 次世代ワークショップ
- 開催日：平成29年11月20日（月）
- 参加人数：21名
- 場所：亀岡市役所202・203会議室
- グループ：（A～D）4グループ



◆次世代ワークショッップの意見

次世代ワークショッップの意見を次に記す。

<p>建物(内装・外観)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自然との調和・・・境界をつくらない。ガラスを多用し内外の区切りをなくす工夫。 ●ルーバーやすりガラスで霧を表現。保津川(流れ・水)のイメージ ●和らぎと温かみを感じる外観・空間 ●派手・豪華にならないように・・・静かに故人のことを思える空間 ●内装はシンプルに・・・お別れの場に 特化した空間に ●あたたかく、ゆったりとした木のイメージ ●天井は高く、自然光を取り入れる ●外観は古風、内装は洋館 	<p>待合スペース</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多目的会場(フリースペース)の設置 個の葬送観を尊重し、コンパクトな葬送観にも対応できる空間を設置 ●デジタル写真スライドの映写機能 ●思い出の品・ギャラリースペース ●亀岡の先人／図書・本棚(選書)／観光／特産品／グッズの各コーナー ●カフェ等の飲食スペース ●ピアノ等演奏 ●故人への手紙を記せる場所(手紙、机) ☞この手紙を亀岡市民の歴史
<p>外構等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雲海のイメージ ●亀岡をイメージした庭園 ☞庭園に回廊を設置し、心の和らぐ空間に ☞梅、桜、新緑、もみじ等の木々を 植樹し、亀岡の一年の既設の変化を表現 ●散策可能な公園スペース ●駐車場はウッドチップ等を敷くなどコンクリート等の無機質な人工物は避ける。 ●自由度が高く、いろいろな人が集えるイメージに 	<p>基本コンセプト【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自然・・・田園、霧、雲海、保津川(下り)、流れる水、自然に帰る、山々、森の中で送る、境界をつくらない、霧の中に浮かぶ舟で故人を送るイメージ ●多様性・・・新旧住民の共存 ●開放感・調和 ●夢の園 ●小鳥が囀る郷 ●瞑想の森 <p>心静かに過ごせる</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●おいしい水、京野菜の活用 ●動物炉、霊安室の設置 ●音響設備 ☞火葬炉のバーナーの音を消す ●土に帰還 ●イメージを良くする施設名の検討 ☞〇〇の森、〇〇の杜等 ●施設場所は、市の中央部かつ山の中で検討すべき ●直葬、家族葬等の葬送への対応 ●環境にやさしい施設(ソーラー発電、LED) ●神社仏閣との融和(歴史文化) 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●おいしい水、京野菜の活用 ●動物炉、霊安室の設置 ●音響設備 ☞火葬炉のバーナーの音を消す ●土に帰還 ●イメージを良くする施設名の検討 ☞〇〇の森、〇〇の杜等 ●施設場所は、市の中央部かつ山の中で検討すべき ●直葬、家族葬等の葬送への対応 ●環境にやさしい施設(ソーラー発電、LED) ●神社仏閣との融和(歴史文化)

コンセプト

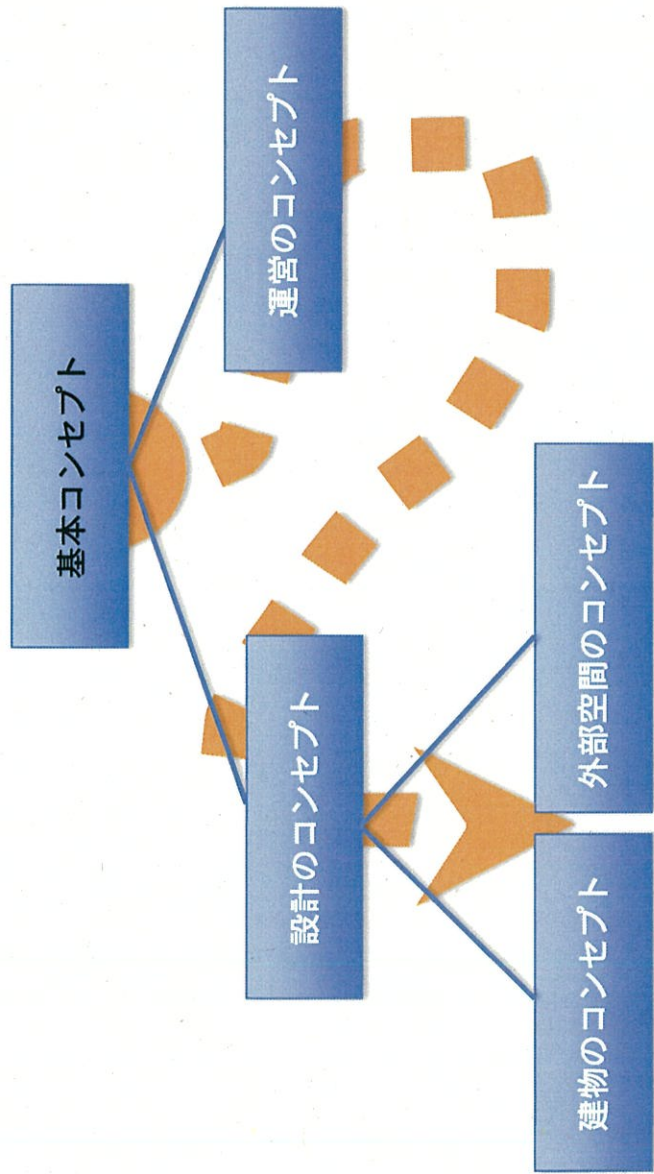
○葬送観・市民ニーズの変化に対応

火葬場は、故人に思いを伝え、故人を思い出させる場、或いは故人が望む葬送観を表現する場という、送る側、送られる側の双方の視点を大切にし、遺族が心静かに過ごせる最期の時空を提供することが求められているのではないかと考えられる。

近年、家族のあり方やライフスタイルの変化により、葬儀（葬送）に対する考え方の変化が見られ、家族葬をはじめ、「個」の葬送観が尊重されるコンパクトな葬送が増え、亡くなった方に身寄りがなく、葬儀なしに直接火葬場へ来る場合（直葬）も増えてきている。

火葬場が、今、「生」を受けて生きる全ての人々が最期に利用する施設であることから、将来的な社会情勢の変化を捉え、亀岡市らしさを表現しながらも、こうした多様な葬送観に対応できる施設整備を進めていく必要がある。

そこで、審議会では、先進地視察、アンケート調査、次世代ワークショップで出された意見を基にして、コンセプトを下図のとおり分類し、それぞれから出された意見をまとめるとともに、主なキーワードを以下に記すこととする。



○基本コンセプト ～亀岡の人と自然が見送る場～

新火葬場の整備は、整備場所の景観に合わせた内容とし、故郷の山並み、霧、田園、保津川など亀岡の自然をイメージした、心静かに故人を送り、送られることができる施設整備を基本コンセプトとする。

キーワード

森の中で送る／霧の中に浮かぶ舟で故人を送る／聖なる川保津川
心静かに過ごせる小鳥が囀る郷・瞑想の森／開放感・調和
安らぎと尊厳への旅立ち／心安らぐ華の里／亀岡の花暦

○運営のコンセプト ～多様な立場・葬送観を受けとめる～

「遺族」や「故人」という送る側、送られる側という考え方をはじめ、多様な立場を理解し、それぞれの葬送観を受けとめる施設整備が求められる。そのためにも、将来的な葬送観の変化に対応できるフレキシブルなリースペースや故人の生きた軌跡を感じ、故人に想いを伝えることができる、また、故人が自らの葬送観を表現する空間の配置を考慮し、遺族が心を癒せる、あたたかく落ち着いた空間を創造する。

キーワード

故人のギャラリースペース、写真等の映写機能／故人の生きた証しを表現
故人への手紙を記せるスペース／音楽が流れる癒しの空間／図書スペース
亀岡の四季を感じる心和らぐ庭園の設置／カフェ等の飲食スペース
直葬への対応／散骨～森に還る、土に還る／施設名称の検討、募集

○設計のコンセプト ～心静かな、お別れの場～

① 建物のコンセプト

自然との調和が図られ、和らぎと温かみを感じる外観・空間を創造するとともに、派手さや豪華さを控え、心静かに故人のことを思えるシンプルな空間を創造する。

キーワード

調和＝境界をつくらない／ガラスを多用、内外の区切りをなくす
ルーバーやすりガラスで霧を表現／天井を高く、自然光の取り入れ
あたたかく、ゆったりとした木のイメージ／火葬のバーナー音を消す

② 外部空間のコンセプト

周辺エリアの土地利用（公園・墓地等）も含め、いろいろな人が集える、自由度の高い空間や故人が送ってもらいたいと思えるような空間を創造する。「亀岡」をイメージした庭園などの心を癒す空間、また、それらをつなぐ回廊（動線）づくりを検討する。

キーワード

散策可能な公園スペース／音楽ホール・会議スペース等多目的空間
亀岡の四季の変遷を表現／故人を迎える杜／

6 新火葬場の整備内容

項目	内容	備考
火葬炉	現火葬場は平成28年度火葬件数838件に対して3基（最高6体/1日）で運用しているが、平成47年のピーク時（死亡者数1,147人）を見込み、人体炉として4基、そして胞衣炉及び予備炉1基の整備を検討する。	
動物炉（ア）	ペット飼養家庭の増加及び市民ニーズを考慮して、動物炉1基を設置する。	新たな整備設備
告別室（イ）	告別室は、他の会葬者との錯綜を避け、故人と会葬者が最後のお別れを密室で厳粛に告別が行える場所として整備する。火葬炉数に整合した室数を確保する。 ・告別室から火葬炉へ送る動線を検討し、整備スペース及び事業費の削減に繋げていく。	新たな整備設備
霊安室（ウ）	火葬の集中時で火葬スケジュールが輻輳している時等、棺を一時的に安置・保管する場所として霊安室を整備する。	新たな整備設備
待合ロビー（エ）	会葬者の休憩場所、待ち合わせ場所として利用できる待合ロビーを整備する。	新たな整備設備
収骨室（オ）	収骨室を複数（2室以上）整備し、増加する火葬需要に対応する。また、・告別室と収骨室を一体化する整備手法を検討する。	新たな整備設備
多目的会場（カ）	多目的会場は、社会情勢や市民ニーズを勘案して整備を検討する。 ・増加傾向にある直送等の小規模な葬送に対応可能な多目的会場の整備を検討する。 ・大規模な式場については、民間葬儀社の会場利用状況や整備場所等を勘案して整備を検討する。	新たな整備設備

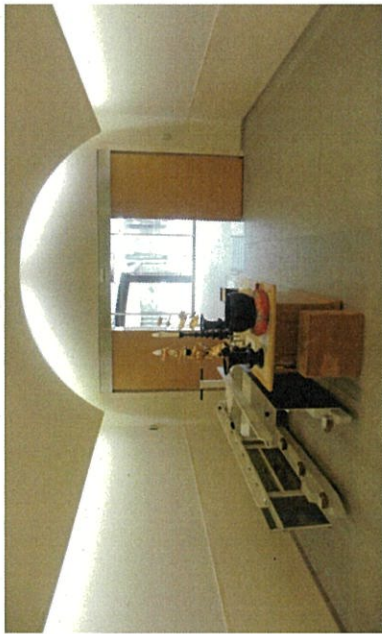
項 目	内 容
構内の通路	建物内の通路は、「会葬者動線」と「管理者動線」を可能な限り視覚的に分離し、火葬場としての整然とした空間を創り出す。
駐車場	駐車場は、歩行者の安全確保やバリアフリーに配慮するほか、車椅子利用者用駐車場の配置場所、マイクロバス等大型車両用駐車場の整備を検討する。
環境緑地	火葬場の環境緑地は、非日常行為である葬送行為に対する、周辺からの結界を果たすとともに、周辺環境との調和、立地状況に合わせた新たなランドスケープの創出に繋がる。
庭園等	庭園等の計画は建物デザインと関わりがあり、計画段階から留意する。特に建物まわりの植栽は、四季を通じて楽しめる花木がバランスよく配置されることにより、年間を通して会葬者にやさざと憩いを与える効果が期待できる。
供養塔等	供養塔等は、残骨灰を収めるための場所として、遺族の目に触れても尊厳を損なわないモニメント（供養塔等）として設置を検討する。

新たな整備を検討する設備

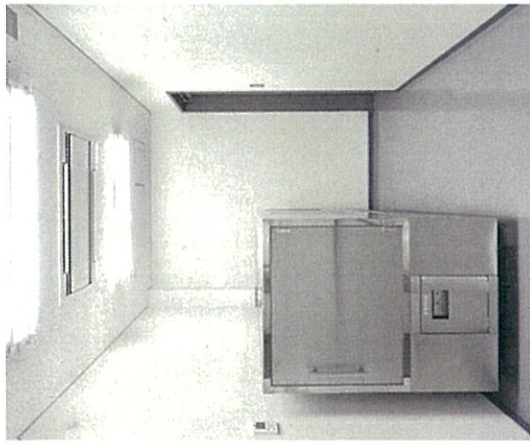
(ア) 動物炉



(イ) 告別室



(ウ) 霊安室



(エ) 待合ロビー



(オ) 収骨室

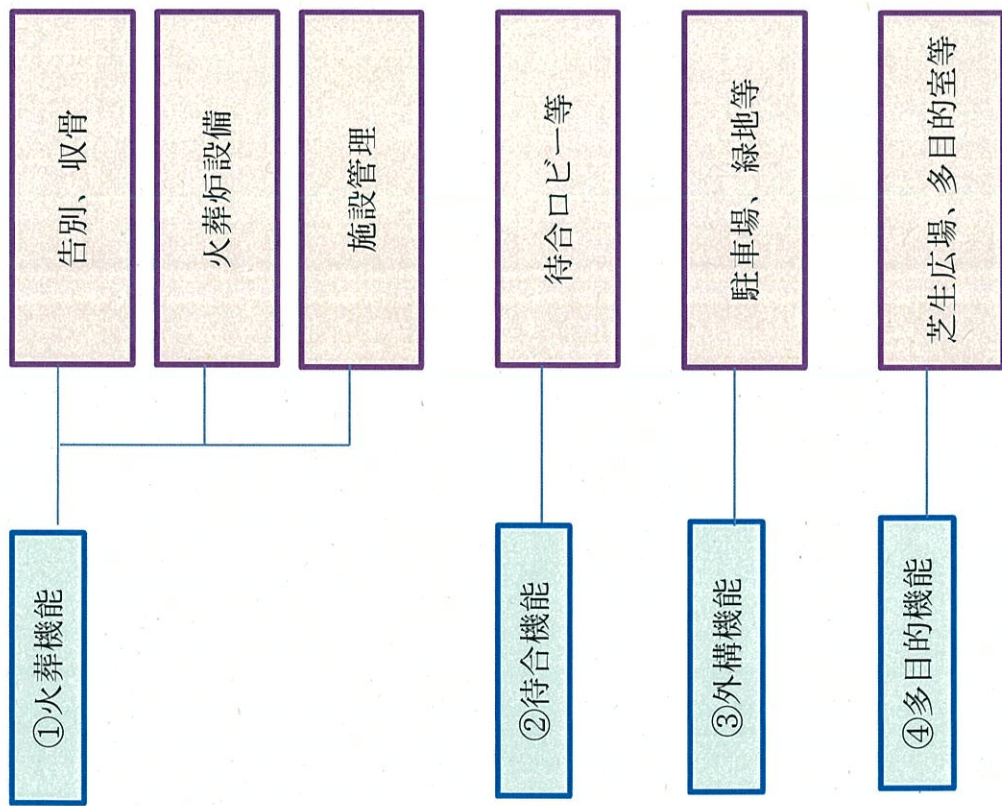


(カ) 多目的会場



◆新火葬場の機能

- 新火葬場の機能
新火葬場は①火葬機能、②待合機能、③外構機能、④多目的機能を満たす観点から検討し、市民ニーズに対応する整備内容を検討する。



〔機能の構成イメージ〕

